

愛知県がんセンターでの診療情報および診療時に採取・保管された検体を下記機関に提供し、下記研究に用いることになりましたのでお知らせします。

記

1. 研究責任者	婦人科部 部長 水野美香
2. 研究課題名	日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録施設の広汎子宮全摘出術の実態調査
3. 研究の目的・方法	子宮頸癌IB1期～II期の標準治療は手術療法または放射線療法であり、手術療法の際には、広汎子宮全摘出術が標準術式となる。平成30年3月に米国で開催されたSociety of Gynecological Oncology (SGO)において、ランダム化第III相試験および観察研究の結果として、低侵襲手術(腹腔鏡下手術/ロボット支援下手術)が、従来の開腹術式に比して全生存率、無増悪生存率ともに有意に予後不良であることが発表された。 そこで、本邦としても、開腹術式と腹腔鏡下/ロボット支援下術式の予後の比較を行い、3者の術式の成績を評価する必要に迫られているが、その評価の基盤となる開腹広汎子宮全摘出術による治療成績や手術による合併症などの全国規模での解析が行われていなかった。本研究では、開腹広汎子宮全摘出術の術式の詳細や有害事象、予後等を調査し、本邦における開腹広汎子宮全摘出術の治療成績や有害事象を明らかにすることを目的とする 研究期間: 2019年3月27日から2021年12月31日まで (遺伝子解析: 行わない)
4. 研究の対象となる方	2015年1月1日から2015年12月31日の間に、当院にて子宮頸癌IB1期、IIA1期症例のうち、手術療法を含む治療を施行した患者さん
5. 研究に用いる検体・情報の種類	検体名() 診療情報内容(患者背景、手術内容、術後病理結果、再発の有無、予後など)
6. 他機関への提供方法	診療情報を記入したCDを宅配便にて送付する
7. 利用する者の範囲	山形大学 産婦人科 永瀬智

- ① この研究の科学的妥当性と倫理性は、当院の倫理審査委員会、遺伝子解析研究倫理審査委員会などにおいて厳重に審査され、承認されています。
個人情報の安全保護については、万全の体制下にて管理され実施されます。
また、調査項目は既存のデータであり、何らかの負担を生じることはありません。
- ② 具体的な研究内容を知りたい、あるいは、今回の研究に用いること、提供を拒否したい場合には下記の問い合わせ窓口までご連絡下さい。

☆お問い合わせ☆

愛知県がんセンター 中央病院臨床試験部試験支援室
倫理審査委員会事務局

住所 : 〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号

FAX : (052-764-2963)

e-mail: irb@aichi-cc.jp

(お問い合わせは、FAX、e-mail 又は郵送でお願いいたします。)